



関宮学園

令和5年度
-3月号-
発行 2/20

男子バスケットボール部 但馬ウィンターカップ 準優勝
女子バスケットボール部 但馬ウィンターカップ 準決勝惜敗

スキー教室 前期 1 / 30 2 / 9 後期 1 / 26

前期課程の2・3回目、後期課程のスキー教室は、天候、雪質にも恵まれて、無事終わることができました。ますます子どもたちはスキーが上手になっていきました。



ドローン実証実験見学 2 / 7

養父市国家戦略特区の取組として、関宮学園から出合診療所、轟高原ルートでのドローンによる物資輸送の実証実験がありました。7日は関宮学園の子どもたちの見学を予定していましたが、残念ながら降雨によりフライトが中止となりました。翌日はフライトができ、子どもたちは思い思いの場所から飛び立つドローンを見送りました。15分後、6年生が作成したメッセージが、無事、出合診療所に届いたとの報告を受けました。



特別授業 2 / 5

元 PLUS 株式会社企画部門長 松本竹志さんを招いて特別授業を行いました。松本さんは、家庭用ハサミ「フィットカットカーブ」、「ハシレ！エンピツケズリ」、「ケース消しゴム Clutto（くるっと）」「富士山消しゴム」の開発を手がけられました。

5年生の社会科学習では「文房具がどのように開発されているのか」について、7年生のキャリア教育では「デザイナー・クリエイターの仕事」について学習しました。



クリエイターの喜び 究極のデザイン

特別授業で来校いただいた松本竹志さんとの話を紹介します。

<クリエイターの喜び>

空間デザインでは、イメージしたものが実際の店舗やオフィスになる喜びがありますが、直接ユーザーに届くものではありません。それに対して、文房具はそれを手に取り、使ってくれるユーザーがいます。喜びのユーザーの声はクリエイターの大きな励みになります。

冷蔵庫や洗濯機などの家電製品への不満は、直接、サポートセンターに届きます。しかし、文房具の場合は、「サイレントクレマー」といって、不満があったら「使わない」「二度と買わない」という行為となるだけで、不満が直接企業には届きません。だから、「良かったとか」「残念だった」とのユーザーの声はとても貴重なものです。今日、富士山消しゴムを使っている子どもがいて、とてもうれしかったです。

<究極のデザイン>

デザインといえば、どうしてもデコレートしたものを思い浮かべがちですが、究極のデザインは普通になったデザインです。例えば、ビール瓶やフライパンなど、名前を聞いただけで思い浮かぶ形があります。どんなものも最初にデザインした人がいるはずで、最初に考えた人は素晴らしいデザイナーです。また、何の説明もなく使い方が分かるデザインも究極のデザインです。壁にある照明のスイッチやコンセントは、誰もが自然に使える素晴らしい究極のデザインです

「あれは何だっけ」と名前を思い出せない商品は、ネーミングが悪いんだそうです。ネーミングがうまい会社があります。おでこに貼る冷却剤を他社の製品でもあっても「〇〇ピタッ」ていいですよ。

関宮学園 HP <http://yabuboard.ed.jp/sekinomiyagakuen/>

